特集

知ろう・つながろう 渋谷の居場所

~④“住まい”としての居場所~

今回のテーマは「“住まい”としての居場所」です。中野にあるシェアハウス【MAZARIBA 中野】さんを取材させて頂きました。「住む」という視点から居場所について考えていきます。

●居場所とは？

今回、特集の執筆の話をもらった時、私（山中）は居場所とは物理的に人が住んでいる場所＝住居なのではないかと考えました。また、その一方で私の中で居場所と聞いて頭に強く浮かんできた出来事がありました。それは、中学生の時にいじめられていた同級生に学校生活の相談をされた場面でした。その同級生が私に「この教室には居場所がない」と涙ながらに話していたのを今でも鮮明に覚えています。この同級生が発言した居場所とは、あきらかに精神的なものを指した言葉でした。このことから、物理的居場所＝住む所、精神的居場所＝楽しく過ごせる所と、居場所という言葉は「心のあるところ」といったような精神的な意味も強く持つのではないかと私は認識しています。

●取材のきっかけ

住まいとしての居場所をテーマに執筆をしようと決まった際、まず「ぱれっとの家いこっと」（以下いこっと）が頭に浮かびました。いこっとは障がいのある人もそうではない人も一緒に住んでいるシェアハウスです。「いこっと」以外に、渋谷区外で障がい者を受け入れているシェアハウスについて調べてみたところ、中野や巣鴨、池袋などを拠点に6箇所のシェアハウスを運営している「MAZARIBA」に辿り着きました。

●シェアハウス「MAZARIBA」とは？

「MAZARIBA」とはどんなところなのか？ホームページで拝見したところ、トップページに大きな文字で「人生が豊かになるシェアハウス」と書かれていました。「MAZARIBA」は「まざりば」と読みます。様々な人たちが出会い、交流する場所という意味です。それまで自分が知らなかった価値観を持った人と知り合い、また自分の事も相手に知ってもらう、沢山の価値観の交換を通じて、人生が豊かになる、そう言う思いを込めて付けた名前だということです。これまで世間一般の賃貸住宅にしか住んだことの無い私にとって衝撃的でした。代表の内田さんに取材のコンタクトを取ったところ、快く取材させていただく事になりました。

●いざ「MAZARIBA 中野」へ

私が勝手にイメージしていた中野駅周辺は、「中野ブロードウェイ」に代表されるサブカルチャーの聖地であったり、色々なジャンルのマニアの方が集まる街、というイメー

ジでした。実際に駅前に降り立つと、改札の前に親しみやすい雰囲気のアーケード飲食街があって、とても賑わっており、「MAZARIBA中野」は中野駅より徒歩 10 分の線路沿いに位置していて一見シェアハウスとはわからない佇まいの住宅でした。

●内田さんに取材

Q-シェアハウスをお作りになった経緯を教えてください。

内田さん　2017 年に聴覚障がいの友人からの問い合わせがあった事が大きなきっかけとなりました。私もそれまで知らなかったのですが、障がいがあると携帯電話を契約するのも難しく、アパートの契約などもよく断られたりするそうなのです。だったら、障がいのある方も住むことが出来るシェアハウスを作ろうと考えました。

はじめは、川崎に障がいのある方も住めるシェアハウスを作りましたが、運営していく中で、そこにこだわり過ぎて、頑張ろうとして肩肘はってしまうと上手くいかないことに気づきました。そこで、現在は外国人も入居可能、というのと同じフラットな感覚で取り組んでおり、どこのシェアハウスでも障がいがあるからという理由でお断りをすることはありません。

Q-シェアハウスに住むメリットは？

内田さん　まずひとつに生活費がとても安く済むことです。家具なども備え付けのものがありますし、このあたりの相場よりもかなり安く住むことが可能です。入居の際の費用も安価で、更新の為の費用などもありません。

次に色々な人と交流できます。うちはシェアハウスが 6 箇所あるのでシェアハウス同士の交流もあるんですよ。気軽に飲み会やろうよ！と言える間柄の入居者同士もいます。一人暮らしと違い、家に帰って誰かとご飯を食べたり、映画やドラマを一緒に見たり、恋愛の話をしたりとオフの時間を楽しく過ごすことができます。人と話すことに疲れたとか、一人の時間が欲しい時は、自室で過ごせばいいので問題ないです。

Q-何故家賃はこんなに安いのでしょうか？

内田さん　正直、利益は本当に少ないです。ひと部屋あたりで見ても本当に少額です。自分自身も楽しいので運営できています。

Q-地域との交流などはありますか？

内田さん　シェアハウス全体としての外部との交流はほとんどないです。特別なお付き合いはありません。地域のお祭りなどにも参加している入居者もいるようですが、強制ではないので入居者には自由にしてもらっています。

Q-障害のある方が入居して、トラブルなどはありますか？

内田さん　うつ病の人からの問い合わせがよくあり、今まで実際に住まれていた方もうつ病の方が多かったですが、特に大きなトラブルや違和感はないです。私自身今現在、「MAZARIBA中野」に住んでいますが、本当に「普通」です。障がいのある方と暮らすというと、沢山助けてあげなきゃいけないとか思われがちですが、本当に普通なんです。他の入居者の方も「この人は障がいがあるから」といったような意識はないと思います。た

だ、障がいがあっても入居できる物件がある、ということを知られていないのか、問い合わせがほぼないのが現状です。

Q-シェアハウスの課題点について教えてください。

内田さん　運営に関しては、２人で行なっており趣味の延長で楽しくやっています。住民同士の小さなトラブルはありますが、私も実際に住んでいるため大きなトラブルになる前に解決するようにしています。２人で全部のシェアハウスの様子を見るようにしていますが、数が増えると把握しきれないことが多くなってしまうため、少ない方がいいです。６箇所運営していますが、実はこの数でも多いと思っています。

Q-内田さんにとって居場所とはどんなところですか？

内田さん　私にとって居場所とは、居心地のよい場所、ルーツの場所だと思います。また、居場所とはちょっと意味合いが違うかもしれませんが、私のポリシーとして、どんな時も「レディーファースト」の心がけをすることを大事にしています。女性はもちろん、周りの方も含めた居心地の良い場所づくりを常に意識しています。

◄「MAZARIBA 中野」のリビングにて取材（中央が内田さん）

「MAZARIBA」
https://mazariba.jp/
お問い合わせは
ホームページから

●まとめ

今回取材をさせていただき、内田さんの飾らないお人柄とシェアハウスの魅力にどんどんと引き込まれました。取材の所々で内田さんから「シェアハウス面白いですよ！楽しいですよ！」とお話して下さり、本当にシェアハウスに住んでみたくなりました。内田さんは現在、「MAZARIBA中野」に住まわれており、管理者としての業務もこなされています。色々な方が暮らすシェアハウスなのでトラブルもあるかとは思いますが、どんな出来事に対してもドンと構え、入居者と足並みを揃えて乗り越えてくれそうな印象を受けました。また、実際に入居者と同じ場所に住むことによって同じ目線に立つことができるため、何かトラブルが起きた際にも「他人事」ではなく「自分事」として捉えることができるのだろうと思いました。また、後日ではなくすぐに相談に乗ってくれ、話を聞いてくれる存在がいることは入居者にとって、とても心強いのではないかとも思いました。実際に内田さんは入居者の方から「他の人には話せないけれど・・。」と悩み相談を受けることが多いとおっしゃっていました。内田さんと「MAZARIBA」は色々な方の心の拠り所にもなっているのではないかと感じました。

（えびす･ぱれっとホーム　山中　譲）
（たまり場ぱれっと　武井 琴美）
（おかし屋ぱれっと松本 亜沙子）